

「大豊工業 環境・社会報告書 2013」を お読みいただく皆様へ

～本報告書の解説～

◆ 編集目的

「大豊工業 環境・社会報告書2013」は、3つの目的を持って発行しています。

1. 製品による貢献量の開示

大豊グループが生産している製品が自動車等に搭載された時に、一般社会の環境保全にどれほど貢献しているか、定量的に開示します。

2. 生産に関わる環境活動の公表

大豊グループが生産している製品の、製造段階における環境保全の取り組みを公表します。
また、生産に関わるステークホルダーとの取り組みについても公表します。

3. 社内の活動を活性化するツール

各取り組みの責任者に年間の振り返りと、次への取り組みを検討する機会と位置付けて、本報告書は製作されています。

◆ 免責事項

本報告書には将来見通しについての方策や計画が記載されています。これらは2013年3月時点での当社の予測に基づく内容であり、天災、経済動向、法規制動向、業界動向などのリスクや不確実性を含んでいます。そのため、計画などについては実績と異なる可能性がありますので、読者の皆様にはご了承くださいませようお願い申し上げます。

◆ 対象範囲、期間

大豊工業株式会社の環境保全組織(EMS適用範囲)の取り組みを中心に掲載範囲を決めています。国内グループ6社、海外グループ7社においては、取り組みの一部分を事例として記載しています。期間は2012年4月から2013年3月としています。



◆ 公表媒体、公表対象

本報告書は、当社株主総会での直接配布と、ステークホルダーへ郵送での配布をしています。また、当社ホームページ上でweb版を公表していますが内容の差異はありません。

大豊工業 環境

検索

◆ 参考としたガイドライン

・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

◆ 活動の指標(KPI)について

各取り組みを客観的に評価するための指標を、KPIとして本報告書では記載をしています。KPIは実際の取り組みの目標値とその実績値を引用しています。

◆ 各種データについて

本報告書の環境報告面で記載しているデータは、当社内で把握した実績値を根拠としています。

環境データ	実績値の参照元	
違反・苦情件数	地域環境へ迷惑をかけた件数	
CO ₂	製品	業界団体が公表している数値を参照に、社内係数による推測値
	生産	電気、ガスなどの使用量実績を社内係数により算出
排出物	産業廃棄物、有価引取り物の総量	
化学物質量	PRTR法に基づく届出の値	
大気	外部分析による値(計量証明)	
土壌	社内分析による値	
他、有害物質	各種法令に基づく届出の値	
放流量	社内の流量計の読み値	

◆ データの捕捉率

本報告書のP9、P10におけるパフォーマンス結果は、大豊工業(株)単体のものです。大豊グループの連結売上861億円のうち、単体は526億円であるため、本報告書の環境パフォーマンス結果の捕捉率は大豊グループの約60%相当を示すものです。

◆ 昨年からの変更点

- ◆ 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」に基づき、
 - ・コーポレートガバナンスページの拡大
 - ・各環境データの公表範囲拡大
 - ・各環境データの掲載根拠の記載
 - ◆ 中期経営計画の公表に伴い一部表現の見直し
 - ◆ 表紙デザインの大幅な見直し
 - ◆ 「大豊工業 環境・社会報告書2008」以来のフルカラー化
- 上記内容以外にも、見易さ、読み易さに配慮した魅力ある冊子作りを心がけ、中立性、検証可能性も考慮して本報告書は製作されています。

◆ 次回報告書の発行予定

次回報告書は2014年6月発行予定です。

◆ お問い合わせ先

製作総括 安全環境部 環境企画室

◆ 経営状況、社会性報告について
総務部 広報室 TEL:0565-28-2054(直通)

◆ 環境報告について
安全環境部 環境企画室 TEL:0565-28-2089(直通)